

化学療法を受けられる患者様とご家族の方へ

化学療法とは

化学療法とは、抗腫瘍剤を使って行なう薬物療法のことです。抗腫瘍剤は、腫瘍細胞を攻撃する目的で使用されますが、一方で正常な細胞も攻撃してしまうという欠点があります。それが症状として現れるのが副作用です。化学療法では、一種類だけでなく、作用や副作用が異なる数種類の抗腫瘍剤を組み合わせる行ないますが、組み合わせることで、効果をより高く上げ、副作用は同じものが重ならないようにします。また、一度だけではなく、何度も繰り返し行います。

副作用について

副作用は、すべての人に同じように起こるとは限らず、個人差があります。化学療法に際しては、副作用をできるだけ軽減するための対策をとっており、定期的に行う検査や採血などもそのためです。副作用が起こったとしても、症状にあわせて適切な処置を行いますので、少しでもお子さまの症状の変化に気がつかれた場合は、医師・看護師・薬剤師にお知らせください。

お薬の主な副作用

過敏症状

まれに、過敏反応として、蕁麻疹が出る・心臓がときどきする・呼吸がしにくいといった症状が現れることがあります。これまでにお薬でこういったことがあった場合は、お知らせください。

骨髄抑制 [骨髄中の造血細胞（血液を作る細胞）の働きが抑えられて、血液中の大切な成分が減少します]

白血球減少…7～14日頃が特に白血球が減ってきます。

そのため、熱が出たり感染しやすくなったりします。手洗い・うがい・歯磨きをしっかりと行ってください。場合によって、白血球を増やすお薬を使います。

血小板減少…出血しやすくなる場合があります。

場合によって、血小板輸血が行われます。

赤血球減少…貧血が起こりやすくなる場合があります。ふらつきやめまいに注意してください。

場合によって、赤血球輸血が行われます。

吐き気・嘔吐、食欲不振

点滴直後～数日間、吐き気や嘔吐が続くことがあります。

口内炎・下痢

数日～2週間頃、粘膜の細胞が傷ついて口内炎や下痢が起こったり、胃が荒れたりすることがあります。

脱毛

2～3週間後から脱毛が起こることがあります。しかし、治療が終われば数ヶ月で改善します。

腎機能障害・肝機能障害

性腺機能障害（不妊症）

二次性がんの発生

*ここにあげた副作用は、多くの抗腫瘍剤に共通して起こるもので、これ以外にもそれぞれのお薬に特徴的な副作用があります。

副作用を軽減するお薬

*グラニセトン注射・メトクロプラミド注射

…吐き気を抑えるお薬です。

*フィルグラスチムBS®・ノイトロジン®

…白血球を増やすお薬です。

*ウロミテキサン注射

…イホマイド®やエンドキサン®による膀胱粘膜への障害（出血性膀胱炎・排尿障害など）を予防します。

*プレドニン®・デキサート®・ソルメルコート®・ソルコーテフ®

…副腎皮質ホルモン剤で、腫瘍細胞を攻撃する作用を持つほかに、アレルギー反応や炎症を抑えたり、吐き気や嘔吐を抑える働きがあります。

*バクタ®錠・バクタ®顆粒

…細菌による感染を予防します。カリニ肺炎を予防するお薬です。

*フルコナゾール®カプセル注射・イトラコナゾール内用液・ファンガード®注射

…真菌（カビなど）の発育を抑え、感染を予防・治療するお薬です。

*硫酸ポリミキシンB®錠

…腸管内の細菌の増殖を抑えるお薬です。

*アズノールうがい液®

…炎症をしずめ口内炎の症状をおさえるうがい薬です。

